

令和5年度 第3回 葵西小学校運営協議会 会議録（要点記録）

- 1 開催日時 令和5年10月5日（木） 午後2時00分から午後3時10分まで
- 2 開催場所 葵西小学校 2階 会議室
- 3 出席委員 長谷川 良樹、古山 照美、石井 朋子、村井 レティシア
- 4 欠席委員 辻岡 和代、松尾 真由美
- 5 オブザーバー 佐藤 拓男（北部協働センター 所長）
- 6 学 校 水野 希樹（校長）、古橋 智一（教頭）、寺田 善一（教務主任）
廣瀬 高志（生徒指導主任）、工藤 敬子（CSディレクター）
- 7 傍 聴 者 なし
- 8 会議録作成者 CSディレクター 工藤 敬子
- 9 議長の選出

長谷川委員が、本日の議長を務めることを申し出、全員異議なくこれを承認した。

10 協議事項

- (1) 葵西小の子供たちの様子について
- (2) 「葵西小よい子の一日」について

11 会議記録

司会の教頭から、委員総数6人のうち4人の出席があり、過半数に達しているため、会議が成立している旨の報告があった。

(1) 葵西小の子供たちの様子について

協議に先立って行われた授業参観の感想を交えて話し合った。委員からは以下の発言があった。

- ・ 子供たちが口々に新体力テストの記録を話してきた。恥ずかしがらず堂々と話す姿に成長を感じた。（石井委員）
- ・ 1年生が、静かに図工作品の構想を練っていて、その落ち着きに感心した。（石井委員）
- ・ 廊下に子供たちのカラフルな絵が掲示されており、その絵から子供たちの気持ちが伝わってうれしい。コロナの影響も少なく、あまり心配することなく安心して過ごしていると感じられる。（古山委員）
- ・ 先日4年生に認知症サポーター研修を行った講師から、葵西小でとてもいい授業ができたと聞いた。同居家族の少ない子供たちには認知症を実感しにくいいため、機会があれば、繰り返しやっていただけるといい。（古山委員）
- ・ 3年生の国語「ちいちゃんのかげおくり」の授業を見た。子供たちが、なぜ戦争は起こるのかと質問していた。戦争について知るのは大事だと思う。1年生では早くも漢字の勉強が始まっていて感心した。廊下にはトイレの使い方の写真が貼って示してあり、視覚的な示し方が1年生には大事だと感じた。（村井委員）
- ・ 授業中にトイレに行く子供たちが結構いると気付いた。（長谷川委員）
- ・ 4年生の授業で、子供たちがタブレット端末を自在に使いこなしていると感じた。指示に対しての操作だけではなく、慣れている印象を持った。前は静かな授業を

参観したが、今回図工や音楽の授業で、子供たちが積極的に取り組んでいるのが分かった。地域での子供たちの姿からも、こちらが話し掛けたことに対して、自分の意思をはっきり言える子が増えてきた。(長谷川委員)

- ・ 1年生で授業に集中していない子がいた。でも授業の進行を邪魔してはいない。子供たちは、学年が上がっていけば個々に成長していくだろうし、自分の意思で行動できる力を付けていくのだろうと感じる。(長谷川委員)

協議の結果、子供たちの成長に対する実感が共有された。

(2)「葵西小よい子の一日」について

議長の指示により、生徒指導主任から、学校のきまり「葵西小よい子の一日」について、前回からの変更事項の説明があり、委員からは以下の発言があった。

- ・ ゲームセンターの記述に「保護者の許可」が追加されて分かりやすい。17時までの制限が設けられたことで、家庭でも17時が目安になると考える。(石井委員)
- ・ 文中に家庭と保護者へのことが書いてあるからいいと思う。(村井委員)
- ・ 下校時刻を守らなかった具体的なケースは何か。(石井委員)
 - 帰りの会が終わってから、昇降口を出るまで20分かかる子供がいる。昇降口を出てから楽しくおしゃべりをしてしまう子供もいる。(学校)
- ・ 登校時と違って、下校時は子供たちが帰宅するまでに時間がかかる。昔、一人が帰宅したのにもう一人が帰って来なくて、事故の可能性を心配したことがあった。学校では「寄り道をしないで帰りましょう。」という指導をしていただけたらいい。(古山委員)
- ・ 家庭や人によって、時間の感覚の差はある。地域の行事においても時間の変更が少しでもあると苦情が生じることがあった。(長谷川委員)

協議の結果、葵西小学校のきまりが、子供や保護者にとって分かりやすいものに変更されていることを確認した。

その他報告連絡事項等

- ・ 教務主任から、学校関係者評価へのアンケート依頼があった。
- ・ 司会の教頭から、学校運営協議会の自己評価実施について説明があった。
- ・ 司会の教頭から、次回の開催日程について連絡があった。

第4回 令和6年 2月20日(火) 14:00~16:00
- ・ 次回議長について、長谷川委員から、石井委員を推挙する旨の発言があり、全員異議なく、石井委員にお願いすることが決まった。